

令和 7 年 度

社会福祉法人

加茂光陽会

事業報告書

社会福祉法人 加 茂 光 陽 会

令和7年度 社会福祉法人加茂光陽会 事業報告書

1 概要

令和7年度における事業運営の基本方針は、以下のとおりであった。

1、福祉施設としての目標

- ① 利用者から信頼される、充実したサービス
- ② 利用者家族から信頼される施設運営
- ③ 地域社会から信頼される、心のこもった福祉サービス
- ④ 地域との交流を深めるイベントの実行
- ⑤ 職員同士お互いに信頼し合える、職場環境づくり
- ⑥ 内部及び外部における職員研修、資質向上のための研修受講や資格取得の推進を図る
- ⑦ 地域における公益的取組の実施
- ⑧ 業務継続計画の検討

2、経営面の目標

【堅実な法人運営・経営改革への取り組み】

- ① 経営意識の醸成と経営組織のガバナンスの強化
- ② 経営理念、経営方針の明確化と浸透
- ③ 各事業所とも稼働率95%の確保
- ④ 事業運営の透明性の向上
- ⑤ 財務規律の強化
- ⑥ 各種加算の積極的取得

これらを重点目標として事業を実行し、法人の厳正な運営を行うとともに各施設の新たな発展と安定した経営の確立に努めた。職員の離職により人材不足は深刻さを増しており、人材確保に苦慮した。また、施設の老朽化に伴う修繕費の増加、物価・エネルギー価格等の高騰により、経営は大変厳しいものとなった。

2 事項別の状況

- (1) 施設目標については、各施設が目標達成に向けた努力を継続し、利用者へ寄り添うサービスを日々心がけた。
- (2) 経営意識の醸成と経営執行機能の強化については、全体会議や管理者会議など機会あるごとに、経営者から管理者に向けた啓発を徹底した。また、各組織における職位と責任の明確化及び部下への指導・教育の徹底を図った。
- (3) 経営理念、経営方針の明確化と浸透については、全体会議、研修の場を活用し、全員に浸透を図るべく努めた。
- (4) 職員の確保を図り安定した運営を目指したが、職員採用に介護職員 8 名（内外国人特定技能 1 名、技能実習生 2 名、パート職員 3 名）、調理職員 1 名（内外国人技能実習生 1 名）を確保したが、パート職員の比率が高いうえに離職者が 12 名となったため、介護・看護・調理現場は苦戦を強いられた。そのため、派遣職員を採用した。安定した職員確保のために、本法人では奨学金制度を導入しており、地元大学の学校法人美作学園美作大学短期大学部専攻科とも連携を図っている。
- (5) 経営面において特別養護老人ホーム緑山荘は、入所者の長期入院加療、他施設への転居等もあり、平均稼働率は 91.3% で、前年度に比べ利用率は 2.7 ポイント減となった。短期入所は、受け入れを積極的に勤めたが、平均稼働率 37.4% となり昨年より 1.0 ポイント減少した。グループホーム杉宮は、入所者の入院等があったが、1.4 ポイント増の平均稼働率 93.4% となった。
- (6) 現場事務の効率化を図るためにタブレット・インカム等の IT 機器の活用を図った。
- (7) 職員の育成及び職務上必要な能力の向上、施設利用者へのサービス向上に資することを目的に、資格取得支援制度の活用を図った。
- (8) 法人全体の企画実行委員会を中心に、敬老祝賀会、納涼まつり等季節ごとの催しを行ったが、演奏会、文化講演会等地域の方が参加できる法人の行事は、感染症等の拡散防止のため昨年同様中止を余儀なくされた。

3 報告

- (1) 感染症対策
新型コロナウイルス、インフルエンザ等、施設内で感染の拡大が発生しないよう対策を行った。
- (2) 職員専用外部相談窓口を設置
職員が安心して働くことができる職場環境を提供するため、社外通報相談窓口を設置した。
 - ・なんでも相談窓口
 - ・ハラスメント相談通報窓口
 - ・コンプライアンス通報窓口

4 現法人の組織（令和8年3月31日現在）

- | | | | | | |
|-----------|------------------------|-------|-------|-------|-------|
| (1) 所在地 | 岡山県津山市加茂町小中原115番地 | | | | |
| (2) 法人名 | 社会福祉法人 加茂光陽会 | | | | |
| (3) 組織 | 役員8名（理事6名 監事2名） 評議員 7名 | | | | |
| (4) 役員氏名 | 理事長 | 只友世毅子 | | | |
| | 業務執行理事 | 薄元 優子 | | | |
| | 理事 | 小倉 道紀 | 平井 通博 | 岡田 和子 | 河本 泰精 |
| | 監事 | 神崎 信輔 | 小松 茂 | | |
| (5) 評議員氏名 | | 八木恵三子 | 八木芙佐子 | 森岡 礼治 | 江見 正暢 |
| | | 高矢 満雄 | 稲葉 伸次 | 石原 啓嗣 | |

5 令和7年度施設整備等の状況

[illegible]

6 理事会等開催状況

年月日	事項	説 明	備考
R7. 5. 13	監事による監査	法人及び各施設の業務の執行状況及び、収支の状況、財産目録等について監査を受ける	
R7. 5. 30	第1回理事会	1 令和6年度事業報告・決算報告・監事監査報告 2 理事候補者・監事候補者・評議員候補者の推薦提案事項 3 評議員選任・解任委員会の招集 3 評議員会の招集 以上、原案通り可決・承認	
R7. 6. 9	評議員選任・解任委員会	評議員の選任について	
R7. 6. 17	第1回評議員会	1 令和6年度事業報告・決算報告・監事監査報告 2 理事・監事の選任 以上、原案通り可決・承認	
R7. 6. 17	第2回理事会	1 理事長及び業務執行理事の選任 以上、原案通り可決・承認	
R7. 11. 27	第3回理事会	1 令和7年度第一次補正資金収支予算 2 加茂介護支援センター緑山荘廃止 3 緑山荘居宅介護支援センター廃止 4 評議員会の招集 以上、原案通り可決・承認	
R7. 12. 5	第2回評議員会	1 令和7年度第一次補正資金収支予算 2 加茂介護支援センター緑山荘廃止 3 緑山荘居宅介護支援センター廃止 以上、原案通り可決・承認	
R8. 3. 17	第4回理事会	1 定款の変更 2 経理規程変更 3 令和7年度第二次補正資金収支予算 4 令和8年度事業計画 5 令和8年度資金収支予算 6 評議員会の招集 以上、原案通り可決・承認	
R8. 3. 25	第3回評議員会	1 定款の変更 2 経理規程変更 3 令和7年度第二次補正資金収支予算 4 令和8年度事業計画 5 令和8年度資金収支予算 以上、原案通り可決・承認	

7 防火・防災対策

1 概 況

令和7年度は、大きな被害は無いものの6月からトカラ列島近海を震源とする地震が度々発生、その後も他の地域でも地震が発生した。また、令和8年1月6日に島根県東部を震源とする地震が発生し、津山地域でも震度3の揺れを感じた。幸いなことに大規模な災害に見舞われなかったものの、当法人においても、感染症の防止対策を講じながら、火災、水害等を想定した訓練などを行った。

災害対策規程及び消防計画に基づき防火管理体制を整備し、職員の責任分担を明確にするとともに、消火・警備・避難設備等の定期点検を実施して非常の際に円滑に機能するように努め、災害委員会において具体的な改善見直しを行った。

Jアラート訓練（全国一斉情報伝達訓練）津山市防災行政無線を活用して、職員等の防災・緊急避難意識の高揚を図り、通報・防災・避難訓練を実施した。

2 実施状況

実施年月日	内 容
R7. 5. 25	グループホーム杉宮【総合防災訓練】
R7. 8. 26	特養【総合防災訓練】火災報知器等の操作・復旧手順の説明 火災想定避難訓練を机上で実施、施設内の消火器等の設置個所の確認
R7. 11. 2	グループホーム杉宮【総合防災訓練】
R8. 3. 24	特養【総合防災訓練】日中想定 火災が起きた場合の、通報訓練、避難訓練、救急救命講習

3 消防用設備等の点検実施状況

津山日本消防機具(株)と消防用設備の保守点検について契約し、令和7年9月30日と令和8年3月23日の2回施設の自動火災報知設備・防火戸・誘導灯設備・消火器具等の保守点検を実施した。

また、令和8年3月消防署職員監視下で、全職員を対象に総合防災訓練、AED、救急救命講習を行った。

令和 7 年 度

特別養護老人ホーム

緑 山 荘 事 業 報 告 書

社会福祉法人 加 茂 光 陽 会

I 概要

“選ばれる施設作り”を目標に、職員の知識と技術の習得、思いやりの気持ちや意識作りと安全の確保を実現する為の取り組みや、利用者の尊厳の保持に努めることに重点を置き事業に取り組んだ。

(1) 利用者の尊厳を保持したサービス提供

- ・利用者個々のニーズに合わせた個別ケアの実践に努めた。
- ・虐待や身体拘束を行わない適切な対応を行うために検討や工夫に努めた。
- ・安全、安心な生活を確保できるよう、事故防止策の徹底や環境整備に努めた。
- ・生活の場として日常を感じられるように季節の催し、レクリエーション等の実施により生活の質の向上に努めた。

(2) 職員の資質向上

- ・専門職としての知識・技術向上と資格取得のため、施設外の研修へ8回職員を派遣、施設内においてもオンラインを利用し20回の研修を実施し、能力開発と資質の向上に努めた。
- ・令和7年度の介護福祉士国家試験については1名の介護職員(ミャンマー人)が受験し、合格した。
受け入れた技能実習生としては初めての合格であった。
- ・ケア記録のICT化に向けて、ソフトの導入にあたりタブレットやパソコンの効率よく使用方法の検討や調整、入力方法の習得に努めた。

(3) 地域社会との交流

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域住民も参加できる研修や文化講演会は実施できなかったが、納涼まつりは多目的ホールで、ご利用者と職員だけで実施した。実習生およびボランティアの受け入れは行った。
加茂中学校音楽部や加茂保育園とは、感染対策をした上で交流することができた。

（４）稼働率を上げるための対応

- ・待機者の減少がみられ、居宅介護支援事業所、病院の医療連携室等との連携を図り、病院退院後や施設退所後の行先として入所申込み者の獲得に努めた。
- ・健康管理、事故発生防止、早期退院受け入れにより入院期間の短縮に努めたが、入院者が多い状況があった。
- ・口腔ケアを行い誤嚥性肺炎の予防に努めた。

Ⅱ 処遇の状況

1 介 護

（１）概 況

利用者自身が有する能力に応じ、可能な限り自立した生活を営むことができるように、また、寝たきりの状態にならず、活気のある日常生活を送ることができるように、個別の援助計画（施設サービス、栄養ケア等）を作成し援助に努めた。

（２）実施状況

①介護サービスの質的充実

専門職としての知識・技術の向上を図り、利用者個々のニーズに合わせたサービス提供に努めた。

②利用者の生活の質（ＱＯＬ）の向上

体調に応じてではあるが、離床することを基本として、利用者の生きがいと活気ある生活が実現できるよう、リハビリやクラブ活動や季節に応じた行事、レクリエーション等計画し実施した。誕生日会では写真のプレゼントを行った。

毎週日曜日に介護ミーティング、介護・看護会議を行い、情報共有、改善点、ヒヤリハット、事故報告書の振り返りを行い技術向上を図った。

口腔ケアを毎食後に実施し清潔保持に努め、誤嚥性肺炎のリスクを軽減した。

年2回（9月・3月）、歯科医、歯科衛生士による指導を受けた。

③生活環境の整備

衛生的に快適な生活が送れるよう、施設内を清潔に保つことを心がけた。また、安全確保のための環境整備や修繕箇所の補修を行った。

④地域社会との交流

加茂郷マラソンの応援や加茂町文化祭、加茂中学校音楽部の演奏会に、数名の利用者が参加した。また、七夕会では加茂中学校音楽部が演奏を披露し、秋祭りの時期には加茂保育園の園児達の子供神輿が来荘し、利用者と触れ合うことができた。しかし、コロナウイルス感染症防止の観点から、納涼祭や敬老会は利用者と職員のみで行った。

（3）反省と今後の課題

介護職員の人材不足により、通常業務を実施することが厳しい状況が続いているが、業務内容やケアの時間を抜本的に見直すなど、施設の全職員で工夫を重ね、協力し、利用者の生活を支えていくことができるよう努めている。

利用者の尊厳の保持と個々のニーズに合わせたサービス提供については、専門職としての知識、技術の向上に努め、利用者本位の対応を継続していく必要がある。

病院の地域連携室や他施設等とへの情報提供や営業を行うことで、入所申込者の増加に努め、日常的に連携を図ることで早期に入所の決定ができるように取り組む。

また、事故や病気の発生を最小限に食い止めるべく、安全面への配慮と健康管理に努めるとともに、入院等の状況を回避し稼働率を高めるように努める。

施設での生活が楽しみのある充実としたものとなるように、様々な企画等を実施するとともに生活の場として、安心・安全に過ごすことを保証すべく多職種協働でのサービス提供を行っていく。

新型コロナ感染拡大に注意しながら、できる限り外出の機会を増やし地域社会との交流を深めたい。

(4) 週間業務

1 週間における業務を次のとおり実施した。

令和7年度 曜日ごとのサービス内容

	日	月	火	水	木	金	土
午前	ルームケア 身辺ケア 更衣 介助浴 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴、清拭 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴、清拭 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 介助浴 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴、清拭 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 特浴、清拭 ベッドメイキング	ルームケア 身辺ケア 更衣 介助浴 ベッドメイキング
午後	身辺ケア 更衣 ベッドメイキング	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキング	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキング	介助浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキング	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキング	特浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキング	介助浴 身辺ケア 更衣 ベッドメイキング 食堂レク

- ・シーツ交換（随時行う）、ポータブルトイレ洗い随時
- ・散髪 月 2 回程度 第 2 火曜、第 3 水曜（外部業者による）
- ・天気の良い日に外気浴の実施
- ・誕生日会 第 2 水曜

<レクリエーション>

利用者が季節を感じ、活気ある時間を過ごすことができるよう、レクリエーションを計画、実施した。
(実施状況)

	実施内容
令和7年 4月	お花見会 (中庭の散策)
5月	端午の節句
6月	
7月	納涼まつり
8月	七夕まつり、加茂中学校演奏会参加
9月	敬老会 (祝賀式・慰問)
10月	地域のまつり、お祭りごっこ(加茂保育園)
11月	加茂町文化祭参加、中庭で柿の収穫
12月	新年を迎える会 (餅つき)
令和8年 1月	書初め・干支の置物作り・お年玉
2月	節分
3月	

(令和8年3月31日現在)
＜利用状況＞

		合計	R7. 4	R7. 5	R7. 6	R7. 7	R7. 8	R7. 9	R7. 10	R7. 11	R7. 12	R8. 1	R8. 2	R8. 3
稼働日数		365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	56.0	56.7	58.0	58.2	59.4	59.7	57.2	54.3	55.0	54.5	52.7	52.9	53.2
	男	8.0	7.8	8.0	8.2	9.0	9.0	7.2	7.8	9.0	8.5	7.0	7.0	7.0
	女	48.0	48.9	50.0	50.0	50.4	50.7	50.1	46.5	46.0	46.0	45.7	45.9	46.2
月間延利用数	計	20,438	1,702	1,798	1,745	1,840	1,850	1,717	1,683	1,650	1,688	1,635	1,482	1,649
	男	2,904	234	248	245	279	279	215	242	270	262	217	196	217
	女	17,535	1,468	1,550	1,500	1,561	1,571	1,502	1,441	1,380	1,426	1,418	1,286	1,432
月末在所者数	計	674	58	58	59	60	59	56	55	55	53	52	53	54
	男	95	8	8	9	9	9	7	9	9	7	7	7	7
	女	579	50	50	50	51	50	49	46	46	46	45	46	47

年間平均稼働率 91.30%

(令和8年3月31日現在)
＜分類別人員＞

年代別人員

区分	男	女	計
50歳代	0	0	0
60歳代	0	1	1
70歳代	3	7	10
80歳代	3	8	11
90歳代	1	28	29
100歳代	0	3	3
計	7	47	54

介護度別人員

区分	男	女	計
要介護1	0	0	0
要介護2	0	0	0
要介護3	3	18	21
要介護4	1	16	17
要介護5	3	13	16
計	7	47	54

出身地別人員

区分	男	女	計
津山市	7	46	53
(内加茂・阿波)	(2)	(27)	(29)
鏡野	0	0	0
奈義	0	0	0
真庭	0	0	0
勝央	0	1	1
県外	0	0	0
計	7	47	54

利用実績表

令和7年度	合計	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
稼働日数	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	56.0	56.7	58.0	58.2	59.4	59.7	54.3	55.0	54.5	52.7	529.0	53.2
	男	8.0	7.8	8.0	8.2	9.0	9.0	7.2	7.8	8.5	7.0	7.0	7.0
	女	48.0	48.9	50.0	50.0	50.4	50.7	50.1	46.0	46.0	45.7	45.9	46.2
利用延べ人数	計	20,439	1,702	1,798	1,745	1,840	1,860	1,717	1,683	1,650	1,658	1,635	1,649
	男	2,904	234	248	245	279	279	215	242	270	262	217	196
	女	17,535	1,468	1,550	1,500	1,561	1,571	1,502	1,441	1,380	1,426	1,418	1,432

稼働率 91.3%

令和6年度	合計	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3
稼働日数	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	57.7	57.8	56.6	56.8	56.4	57.1	57.2	59.0	59.5	58.8	57.6	56.1
	男	9.4	10.8	10.0	10.0	10.0	9.7	9.0	9.0	10.0	8.6	7.9	7.5
	女	48.3	47.0	46.6	46.8	46.4	47.1	47.5	50.0	50.5	49.3	50.2	48.6
利用延べ人数	計	21,053	1,733	1,766	1,747	1,747	1,770	1,716	1,828	1,785	1,837	1,739	1,739
	男	3,423	324	310	310	310	292	279	270	309	267	232	232
	女	17,630	1,409	1,446	1,437	1,437	1,460	1,424	1,549	1,515	1,528	1,557	1,507

稼働率 94.0%

令和5年度	合計	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3
稼働日数	366	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
平均利用者数	計	59.2	59.7	59.5	59.7	60.0	60.0	59.4	59.9	58.9	57.6	57.0	58.6
	男	9.5	8.7	9.3	9.7	10.0	10.0	10.0	9.9	8.6	9.0	9.0	10.2
	女	49.7	51.0	50.2	50.0	50.0	50.0	49.4	50.0	50.3	48.6	48.0	48.4
利用延べ人数	計	21,669	1,792	1,844	1,791	1,791	1,880	1,799	1,841	1,798	1,826	1,653	1,818
	男	3,493	262	289	291	310	300	300	296	266	261	261	317
	女	18,176	1,530	1,555	1,500	1,550	1,550	1,499	1,531	1,500	1,508	1,392	1,501

稼働率 95.1%

令和4年度	合計	R4.4	R4.5	R4.6	R4.7	R4.8	R4.9	R4.10	R4.11	R4.12	R5.1	R5.2	R5.3
稼働日数	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	57.0	56.0	52.5	54.4	56.3	57.4	58.8	57.4	58.0	58.2	58.1	57.5
	男	9.2	8.6	8.4	8.4	8.9	8.5	10.0	9.3	10.5	10.5	9.6	9.0
	女	47.8	47.4	44.2	46.0	47.4	48.9	48.1	48.0	47.7	48.5	48.5	50.1
利用延べ人数	計	20,794	1,679	1,629	1,631	1,745	1,779	1,765	1,779	1,740	1,804	1,802	1,832
	男	3,350	258	252	252	277	262	299	289	324	252	279	279
	女	17,444	1,421	1,369	1,379	1,468	1,517	1,466	1,490	1,441	1,480	1,503	1,553

稼働率 95.0%

令和3年度	合計	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2	R4.3
稼働日数	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	58.0	59.0	57.2	58.1	58.5	58.5	57.4	58.2	57.8	56.7	58.5	58.0
	男	11.4	12.7	12.5	12.6	12.5	13.0	11.9	10.5	10.3	10.0	9.5	9.1
	女	46.7	46.3	44.7	45.5	46.0	46.5	45.9	47.7	47.5	46.7	48.9	48.8
利用延べ人数	計	21,180	1,770	1,774	1,743	1,814	1,816	1,754	1,779	1,745	1,793	1,758	1,797
	男	4,146	382	388	379	388	402	368	355	319	310	267	283
	女	17,043	1,388	1,386	1,364	1,426	1,414	1,396	1,424	1,424	1,474	1,448	1,514

稼働率 96.7%

令和2年度	合計	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3
稼働日数	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	58.1	57.4	56.7	59.0	57.4	58.6	59.8	56.0	56.6	59.5	58.9	58.2
	男	13.0	12.7	12.6	13.0	13.0	14.0	13.2	13.0	13.0	12.4	12.9	12.7
	女	44.5	43.2	44.1	45.2	44.4	45.2	45.8	42.8	43.6	45.0	44.0	45.5
利用延べ人数	計	21,044	1,765	1,780	1,700	1,854	1,778	1,757	1,681	1,756	1,782	1,650	1,805
	男	4,769	403	394	377	403	403	433	397	403	386	374	395
	女	16,275	1,295	1,386	1,323	1,400	1,375	1,356	1,421	1,353	1,396	1,276	1,410

稼働率 96.8%

平成31年度	合計	H31.04	R01.05	R01.06	R01.07	R01.08	R01.09	R01.10	R01.11	R01.12	R02.01	R02.02	R02.03
稼働日数	366	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31
平均利用者数	計	57.5	55.5	56.9	58.8	58.1	58.5	57.4	56.3	58.7	56.6	57.8	56.5
	男	14.6	15.0	13.5	13.9	14.0	14.1	15.0	14.7	15.0	14.9	14.8	15.0
	女	42.9	40.5	43.3	44.9	44.8	44.0	43.5	42.4	41.6	43.7	41.7	41.5
利用延べ人数	計	21,038	1,665	1,763	1,763	1,823	1,800	1,755	1,699	1,820	1,754	1,676	1,752
	男	5,332	450	420	417	434	436	450	440	465	462	428	465
	女	15,706	1,215	1,343	1,346	1,389	1,364	1,305	1,313	1,249	1,355	1,292	1,287

稼働率 95.8%

平成30年度	合計	H30.04	H30.05	H30.06	H30.07	H30.08	H30.09	H30.10	H30.11	H30.12	H31.01	H31.02	H31.03
稼働日数	365	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数	計	57.5	56.0	58.2	57.7	57.9	56.8	57.7	56.7	56.6	58.8	56.9	59.0
	男	14.5	13.4	14.8	14.6	14.8	14.8	15.0	14.0	14.1	13.9	14.1	16.0
	女	43.0	41.6	43.4	43.1	43.2	42.0	42.7	42.6	42.5	44.5	42.5	43.1
利用延べ人数	計	20,988	1,660	1,803	1,732	1,794	1,761	1,731	1,757	1,697	1,824	1,817	1,830
	男	5,285	401	459	438	454	459	450	435	423	430	438	435
	女	15,703	1,249	1,344	1,294	1,340	1,302	1,281	1,322	1,274	1,394	1,379	1,395

稼働率 95.8%

2 給 食

(1) 概 況

利用者の健康保持、増進とあわせて食べる楽しみを満たし、暖かい家庭的環境の中で老後の食生活を明るく楽しいものにすることを目標とし、全利用者の性別、年齢、身長、体重、身体活動レベルを基に「日本人の食事摂取基準（2025年度版）」により栄養基準量を算出し、これを基本として献立を作成し、充実した食事の提供を行った。（平均摂取量1,500Kcal/日）

(2) 実施状況

- 1 嗜好調査を行い、利用者の意見が反映された献立、行事や食材により季節感や郷土色を感じられる献立を作成した。
元旦には、嚥下困難な方のために餅の代替え食を作りお雑煮を提供した。
- 2 前年度の実績により作成した食品構成を活用し、栄養基準を満たした献立を作成した。
- 3 利用者個々の状態に対応した食形態、自助具・自助食器の使用、栄養補助食品の提供を含めた食事の提供を行った。
- 4 栄養指導は必要に応じて、個人を対象に日常会話を通じて行った。
- 5 給食材料の購入については、地元の店を優先し、価格、鮮度の面で信頼のできる業者を利用した。また、業務の効率化を図りつつ献立を豊かなものにする為、利用者の状態に合わせながらも楽しんでいただけるような食材選びに努めた。
- 6 温かい料理は温かく、冷たくして食するものは冷たく、適温給食の提供に努めた。
- 7 衛生面については、食品の取り扱いから、マスク・手袋・帽子的着用の徹底、施設・設備の整備を行った。
手洗いの徹底、消毒、加熱、することにより、食中毒の発生を防いだ。
- 8 調理員の志気を高め、衛生面を考慮し調理室内では専用の白衣・帽子・靴を着用した。
- 9 食器やスプーン等も個々に合わせて調整し自力摂取を促し機能低下を防ぐよう関連職種で相談した。

(2) 実施状況

食事の状況

(令和8年3月31日現在)

内		容		備	考	
一般食	主食	8年	7年			
		おにぎり食	1人	1人	利用者個々の必要量や摂取状況による量に合わせた量を提供	
		ごはん	14人	14人		
		かゆ食	38人	36人		
		・全がゆ	21人	21人		
		・五分がゆ	0人	0人		
		・おもゆ	0人	0人		
		・かゆミキサー	20人	15人		
	副食	普通食	13人	14人	歯の脱落や咀嚼力の低下した方への対応	
		軟菜食				
		きざみ食	16人	15人		
		超きざみ食	3人	4人		
ミキサー食		21人	18人			
経管栄養食	経管栄養食	0人	1人	嚥下困難、咀嚼困難な方への対応		
特別食 【特別に費用を徴するもの】	療養食	潰瘍食		医師の指示により対応		
		糖尿食				
		減塩食				

食事の分類も利用者の状態（義歯の不適合者、咀嚼、嚥下困難な者等）、本人の希望などがあり複雑になっている。日々の状態が変わるため、食事変更は看護職員より連絡を受ける。また、特定の疾患（糖尿病等）を患っている方の食事については、医師の指示を受けて、個々にあわせた栄養計算に基づく食事を提供している。また、食器やスプーン等も個々に合わせて対応している。

令和7年度 行事食の状況

月	日	行 事 名	行 事 食 の 概 要
4月3日		ひな祭り	三色押し寿司、チキンロールの三色巻き、豆腐の赤だし、抹茶羊羹苺添え
5月5日		端午の節句	山菜のちらし寿司、キャベツとささみの辛子和え、舞茸のすまし汁、季節の和菓子
6月1日		田上がりぼた餅	田上がりぼた餅、エビと胡瓜の酢の物、豚汁、フルーティーサラダゼリー
7月19日		土用の丑の日	うな井、ごまわさび和え、そば汁、みつ豆風
8月7日		七夕まつり	七夕そうめん、海老つみれのあんかけ、しぎなす、みかんの寒天寄せ
8月13～15日		お盆	精進料理
9月15日		敬老祝賀会	お赤飯、ぶりの照り焼きと煮物、茶碗蒸し、松茸のすまし汁、抹茶羊羹
9月23日		秋分の日	おはぎ、湯葉巻きあんかけ、雷汁、コンポートクリーム添え
10月19日		軒戸祭り	祭り寿司、南瓜のそばろ煮、赤だし、プリンアラモード
12月25日		クリスマス会	チキンライス、鮭とほうれん草のクリーム煮、マカロニサラダ、コンソメスープ、クリスマスプリン
12月31日		大晦日	年越し蕎麦、胡瓜の酢の物、野菜ジュースゼリー
1月1～3日		おせち料理	お雑煮、黒豆、数の子土佐漬け、伊達巻、鰯と野菜の炊き合わせ、五色なます、チキンロール お正月ミート、数の子入り酢の物、ぶりの照り焼き、栗きんとん、三色そばろ寿司、抹茶羊羹
1月7日		七草粥	七草粥、七宝煮、白和え、白はんぺんのすまし汁、梨のコンポート
1月15日		小正月	小豆粥、鶏肉の中華だれ焼き、レンコン炒め、吉野汁、りんごのコンポート
2月3日		節分	節分ちらし寿司、南瓜のうま煮、かにつみれのすまし汁、抹茶ゼリーと苺
3月20日		春分の日	ぼた餅、肉じゃが、菜の花のすまし汁、キウイフルーツ

3 医療と看護

(1) 概 況

- ・高齢化に伴い、心身の機能低下が著しく、貧血や骨粗しょう症等の基礎疾患に加え、疾病の慢性化、重度化に対して医療的なケアの必要性、希望が高くなっている。
- ・高齢の利用者においては、老衰、終末状態にある方もおり、終末期。急変時に関する同意書を作成し、書面で受けている。
終末期ケアに対しては、家族の思いを確認しながら、ケアに努めている。
- ・在宅介護の限度を超えた認知症高齢者ケアや在宅酸素、バルーンカテーテルの留置、褥瘡保有者も多く、医療処置が増えているのが現状で、
定期受診や緊急時を含め、救急搬送が必要なケースも増えている。令和8年1月～看護体制加算Ⅰ（4単位）で対応している。（常勤換算3.0以上）
- ・感染症対策については、重篤化予防のため、早期の予防対策に努めた。
- ・介護職員の医療的ケアの実務研修を担当、7年度は1名、研修中です。対象者は順次研修ができる体制を整えている。

(2) 重点目標

- ①日常的な利用者個々の健康状態の確認、異常の発見と迅速かつ的確な対応。
- ②褥瘡ゼロをめざし、早期完治と予防策の徹底。
- ③感染症予防対策の徹底と発生時の拡大防止の指導。
- ④生活中心の個別リハビリ・総合リハビリの実施により心身機能の低下防止を図る。
- ⑤状態変化について家族との連絡を密にし、安心を提供する。
- ⑥看取りについての体制を整える。
- ⑦口腔ケア、フットケアの実施。
- ⑧職員の健康管理・個人衛生の徹底・腰痛防止対策の実施。

(3) 実施状況

①施設内診療状況

定期回診	只友医院 火、木、金（毎週）	利用者一人一人の健康管理については、疾病の安定を図るため、病院側と連携し対応を行った。（発熱者、体調不良時はその都度報告し、早期処置や専門医受診等で対応）
	ひらいクリニック 水（毎週）	

②受診状況（延べ人数）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
回数	3	7	10	6	7	8	8	5	9	5	6	13	87

＜内訳＞ 内科39回、外科8回、皮膚科9回、歯科9回、精神科2回、整形外科9回、眼科0回、脳外科5回、耳鼻科2回、泌尿器科4回

※前年度より、のべ回数は13回増となっている。歯科受診は義歯作成のためであった。

③入院状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	2	0	5	1	2	3	3	1	2	1	0	1	21
在院	53日	0	64日	12日	14日	27日	118日	24日	45日	4日	0	9日	370日

＜内訳＞ 誤嚥性肺炎5名、肺炎2名、胆石4名、心不全1名、胸水1名、イレウス1名、骨折3名、尿路感染2名、大腸検査1名、精神疾患1名

※前年度より8名増となっている。入院日数は370日、9日増となっている。

④死亡者 年間11名（前年度より1名減、うち看取り対応7名）

⑤褥瘡の状況 令和8年3月31日 現在 保有者1名

- 予防対策
- ①体位変換
 - ②分圧型マットレス使用
 - ③円座・ナーセントパット等の使用
 - ③ポジショニング（個別対応）
 - ④ガーゼ交換・創傷被覆材使用
 - ⑤栄養状態の把握（栄養補助食品の検討）
 - ⑥専門医受診等

⑥ 利用者の健康診断実施状況

＜胸部レントゲン＞

実施年月日	対象人員	実 施 状 況	結 果
R. 7, 8, 19	6 名	健康づくり財団 (施設玄関前)	精密検査 2 名
			2 月は喀痰検査 へ全員移行する

＜喀痰検査＞チールネルゼン検査（結核予防法対応）

小川法培養

実施年月日	対象人員	結 果
R. 7. 8. 19	5 2 名	全員陰性
R. 8. 2. 27	5 2 名	1人陽性

入院 1 名

陽性者1名に対し、結核抗原
精密検査実施し陰性を確認
する。

入院なし

3 か月後の判定結果（－）、発症なし。

定期的な健康診断については、胸部レントゲン検査、喀痰検査を実施している。

利用者の健康管理については、変化時にかかりつけ医へ状態報告を行った。

＜経管栄養者＞ 令和 8. 3. 3 1 現在

1 名 主治医の指示のもとカロリーや時間設定を行い、加圧ポンプにて注入を行っている。

P E G の交換については、6 か月毎に外来受診して交換を受けている。

＜感染症予防対策＞

- ・手洗いの徹底、食後は口周辺や手指の保清に努めた。
- ・ノロウィルス対策として、調理職員に対して、1 0 月～3 月の間月 1 回検査を実施、全員陰性の判定だった。
- ・感染症の持ち込みをしないために、職員、面会者へマスク装着の注意、指導を行った。面会の緩和（相談室で 1 5 分程度）、外出を 3 時間程度まで許可した。
- ・居室やベッド周辺、廊下や手すり、床などの環境整備に努めた。（温度・湿度調節）
- ・感染性胃腸炎に対する汚物処理の仕方、手袋、予防衣着用の方法について指導を行った。

＜インフルエンザ予防対策＞

- ・年間をととして、利用者、職員の手洗い、口腔ケアを行った。
- ・令和 7 年度はインフルエンザ施設内感染なし
- ・インフルエンザ予防接種を実施する。（利用者 4 3 名、職員 4 2 名）

<新型コロナウイルス感染対策>

- ・令和7年度はコロナ施設内感染なし
- ・新型コロナが5類移行後は、定期的な抗原検査は実施しておらず、発熱者発生時病院の指示にて検査を実施していった。
- ・コロナワクチン接種については、12月に利用者20名、職員9名に対し実施した。

⑥職員健康診断実施状況

実施年月日	R7. 8. 21	R8. 2. 27	R7. 12月～R8. 3月
内容	既往歴 血 圧 自覚症状 貧 血 身 長 肝機能 体 重 血中脂質 検 尿 聴 力 心電図 胸部エックス線	血 圧 既往歴 貧 血 自覚症状 肝機能 身 長 血中脂質 体 重 検 尿 心電図 聴 力	〈人間ドッグ〉 生活習慣病予防検診 乳癌、肺癌、胃癌 子宮癌検診 (津山中央健康管理センター) 子宮がん検診のみ(2名)
対象者	62名	21名(夜勤者のみ)	31名

<腰痛検査>年2回実施

近光整形外科診療所にて外来受診をし検査を受ける。

R7. 4月 受診者 41名 腰痛者0名

R7. 10月 受診者 39名 腰痛者0名

安全衛生委員会より個別面接を行い、助言・指導を行った。

腰痛ベルトの支給、ストレッチ体操等、労働災害対策を行った。

⑦調理職員検便実施状況

実施年月日	実施人数	実施年月日	実施人数	実施年月日	実施人数	実施年月日	実施人数
R7. 4. 1	9	R7. 7. 8	8	R7, 10, 7	9	R8. 1. 6	8
R7. 5. 2	9	R7. 8. 5	9	R7, 11, 4	8	R8. 2. 3	9
R7. 6. 3	9	R7. 9. 2	9	R7, 12, 2	8	R8. 3. 3	9

※腸管出血性大腸炎、赤痢菌、サルモレラ菌、腸チフス、パラチフス菌の検査あり、月1回検査出し、全員陰性であった

※ノロウイルス対策については、10月～3月の間で検査を実施、10月9名、11月8名、12月8名、1月8名、2月9名、3月9名実施した。
全員陰性であった。

⑧技能実習生職員の健康管理

- ・技能実習生職員に対しては、買い物の支援や生活支援を行い、働きやすい環境作りに努めた。
- ・技能実習生職員に対して、健康管理に対してのアドバイスや助言を行った。

(4) リハビリ実施状況（令和7年度）

①個別リハビリ

[illegible]

②歩行訓練

[illegible]

③起立訓練

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施人数													
延べ参加人数													

④フットケア

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施人数													
延べ参加人数													

令和7年度も人員確保ができず、機能訓練指導加算が算定できていない。

引き続き、日常生活に必要とする運動を、ラジオ体操、リズム体操、口腔・嚥下体操等で活用している。

レクリエーション行事として、納涼祭り、敬老会、新年を迎える会、誕生会、地域行事では、七夕コンサート、秋祭り、子供みこしでのふれあいを実施した。

令和8年3月～オンコール土日対応について：土日の看護師による第一対応について中止し、第二対応のみとしている。緊急時は各病院へ介護士より連絡をすることになった。現在、夜間の緊急時搬送やオンコール中止による問題は発生していない。ただし、看取り対応の利用者が亡くなった場合は第二対応者で対応する。その場合エンゼルケアを介護のみで対応できるか検討課題。緊急時に必要な書類やマニュアルについては整備中。

令和 7 年 度

緑 山 荘

ショートステイ

事業 報告 書

社会福祉法人 加 茂 光 陽 会

I 概 要

在宅での生活を継続するために心身機能の維持・向上を図るべく機能の活用、生活リズムの調整、他者との交流等により活気のある時間を過ごす事ができるようにサービス提供に努めた。

また家庭の事情に配慮し、介護負担の軽減のために認知症の方の利用、緊急利用についても利用日の調整を行い、受入れを行った。

○サービス提供の為の関係機関との連携

- ・適切なサービス提供が実施できるように居宅介護支援事業者や他の関係機関との情報共有及び連携を図り、利用者の状態及び家族や住環境等の利用者周辺の環境等の情報収集に努めた。
- ・居宅介護支援事業者等が作成した「居宅サービス計画書（介護予防サービス計画書）」に基づき、「短期入所生活介護計画書（介護予防短期入所生活介護計画書）」を作成し、計画的なサービス提供に努めた。

II 利用状況

利用延べ人数は 682 人と前年に比べ 102 人減となった。

入所者が新型コロナ、インフルエンザに感染することはなく、ショート受入れを中止することなかったが、体調不良や長期入院等で利用者数減に繋がったと思われる。しかし、徐々に新規利用者は増えている。

今後の稼働率アップの為には、利用者本人とその家族が利用しやすい状況をつくること、居宅介護支援事業所との連携を図り新規利用者を確保すること、利用者本人にまた来て利用したいという楽しみを持ってもらえるよう質の高いより良いサービスを提供するよう心がけることが必要と考えられる。

令和 7 年 度

緑 山 荘

デイサービスセンター 事業報告書

社会福祉法人 加 茂 光 陽 会

I 概 要

介護保険制度において、在宅の支援に重点が置かれている中、施設の持つ機能を活用して、積極的に事業に取り組んできたが、年間利用者人数は、利用者の入院・療養・ご逝去等により変動があり、利用者の減少に伴い令和３年６月１日より利用定員を２０名から１８名に削減し、「通所介護」から「地域密着型通所介護」事業へ移行した。

利用者数の減数、職員の退職等により、令和５年２月１日から事業を休止していたが、令和８年１月３１日をもって廃止とした。

令和 7 年 度

緑 山 荘

居宅介護支援センター 事業報告書

社会福祉法人 加 茂 光 陽 会

1. 概 要

住み慣れた地域の中で在宅生活を継続することができるよう、在宅介護に関する援助及び介護保険サービスを利用するための支援を実施し、要介護状態になった場合でも個々の有する能力に応じて自立した生活を自宅で送ることができるよう、利用者の心身や介護者の状況や生活環境等に応じて、利用者及び介護者の選択に基づき、介護保険サービス及び保健医療サービス、他の福祉サービス等が提供されるようにケアマネジメントを実施する予定であったが、令和3年6月21日をもって緑山荘居宅介護支援センター休止。令和8年3月31日をもって廃止とした。

2. 居宅介護支援事業

介護保険制度の趣旨に従い業務を実施、要介護状態の方が安心して地域で生活できるよう支援に努めてきた。介護認定を受け、介護保険サービスを利用する方などからの相談に応じ、利用者の希望や心身の状態を考慮しながら、在宅や施設での適切なサービスが受けられるよう居宅サービス計画の作成や関係機関との連絡調整を行う予定であったが、令和3年6月21日をもって緑山荘居宅介護支援センター休止。令和8年3月31日をもって廃止とした。

令和 7 年 度

グループホーム杉宮

事業報告書

社会福祉法人 加 茂 光 陽 会

I 概 要

認知症によって介護が必要になったご利用者が安心して、自分の居場所として感じられるような家庭的な環境づくりに努めた。地域の協力をいただき、避難訓練や子ども会との交流など感染対策に注意し地域交流を図った。ご家族とご利用者との時間を大切にさせていただくため、外出や面会も柔軟に対応した。また、緑山荘での行事に参加するなどご利用者の外出の機会を設けた。

- (1) 利用者の自立支援の質的充実・人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努めた。
 - ・グループホームでの生活が快適でより豊かなものとなるよう、「その人らしさを大切に一人ひとりに寄り添えるケアの実践」を年間目標とし環境作りに努めた。
 - ・利用者および、その家族に対しサービスの内容および提供方法についてわかりやすく説明するように努めた。ご家族と離れて暮らすご利用者の日常生活をお伝えできればと、月に1～3回はご家族に連絡を行った。
 - ・適切な介護技術をもって、サービスを提供するよう努めた。
 - ・グループホーム杉宮内でご利用者が楽しめる行事を企画し、外部ボランティアを招き行った。令和7年4月花見、令和7年8月24（日）納涼祭。令和7年9月15日（月）敬老会。令和7年11月14日（月）音楽祭。令和7年12月4日（木）クリスマス会。令和8年2月3日節分。令和8年3月3日ひな祭り会。令和7年5月25日（日）避難訓練の際には、地域の消防団、町内会の役員などの参加により、地域の交流が出来た。
 - ・ご利用者の家族からの差し入れ野菜、旬の食材を使用し、ご利用者の希望に添った献立を作りと衛生管理に努めた。
 - ・ご利用者の健康管理について、主治医・家族・訪問看護師と連携し、日常の健康チェックを行い、健康管理に努めた。
- (2) 適正な運営管理並びに関係機関との連携

施設のもつ社会的使命を自覚し、行政・医療機関・社会福祉協議会等、関係機関との連携を密にして、利用者のサービス向上に努めた。（運営推進会議開催・包括ケア会議、また外部評価にて貴重なご意見等をいただいた。）

介護報酬での不明点は津山市高齢介護課に出向き担当者に相談し連携が取れた。
- (3) 職員の知識および技術の向上

利用者の自立支援のため、認知症の方々に対し、一人ひとりのニーズや意思を尊重し、常に誠意を持って質の高いサービスが提供できるよう、積極的に外部研修に参加する機会を設け、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めた。（外部研修受講：認知症実践者研修・認知症対応型サービス事業者管理者研修 ・美作保険所管内感染症対策研修会・高齢者虐待防止・接遇・認知症ケア・不適切ケア）（内部研修：身体拘束・誤嚥・接遇・避難訓練・認知症知識・感染症・介護技術・医療的ケア・介護保険制度など毎月勉強会として実施した。）

令和 7 年度

稼働率

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
しゃぼん玉	100	100	92.3	86	86.9	98.5	88.9	97.4	86.7	65.6	79	97.1
紙ふうせん	96.7	92.1	98.9	92.5	87.5	94.4	99.3	100	100	100	100	100

年間平均稼働率 しゃぼん玉 89.9% 紙ふうせん 96.8%

年齢別人数

令和 8 年 3 月 31 日現在

	男	女	計
60 歳代	0	0	0
70 歳代	0	2	2
80 歳代	1	5	6
90 歳代	4	6	10
100 歳代	0	0	0
計	5	13	18

平均年齢 88.7 歳

介護度別人数

	男	女	計
要介護 1	2	2	4
要介護 2	1	5	6
要介護 3	1	6	7
要介護 4	0	1	1
要介護 5	0	0	0
計	4	14	18

平均介護度 2.3